あずか
与る

知っておきたいキリスト教のことば　(7)

「聖餐にあずかる」という言葉を聞かれたことはあるでしょうか。「今日は陪餐にあずかることができました」という会話をすることもあるかもしれません。また聖書をみても、「永遠の命にあずかる」、「復活にあずかる」、「キリストの血にあずかる」などという書き方があります。

新共同訳聖書を見てみますと、「あずかる」という訳語を使っている語のもともとの原語であるギリシア語には、いろいろなものがあります。

例えば、「メテコー」という語はコリントの信徒への手紙一 9 章 10 節に出てきますが、これは「分け前にあずかる」という意味を持ちます。また、「エイス」という前置詞を「あずかる」というように訳している箇所もあります。マタイ 25:46 にある、「永遠の命にあずかる」と訳されている部分は、永遠の命の中に外から加わっていくイメージをもつ言葉になります。

その中で、今回は特に「コイノーニア」という語が「あずかる」と訳されているところに注目したいと思います。新共同訳聖書の中で「コイノーニア」を「あずかる」と訳している箇所は、コリントの信徒への手紙一 10 章 16 節に 2 箇所、そしてフィリピの信徒への手紙 1 章 5 節と 3 章 10 節の合計 4 箇所しかありません。この言葉は所属を示す言葉であり、「交わり」や「一致」と訳すことが多い語です。

したがって、「キリストの体にあずかる」（コリントの信徒への手紙一 10 章 16 節）とは、パンという分け前を受けるということだけでなく、キリストの体につながること、そしてさらに共にキリストの体にあずかる人たちとの交わりをも意味するのです。

この「交わり」こそが、聖餐式です。「聖餐にあずかる」とは、みんなで一緒にイエス様との関係の中に入ることなのです。

次回は「新しい契約」です。お楽しみに。